

図5A 健康食品関連業務に携わっているか

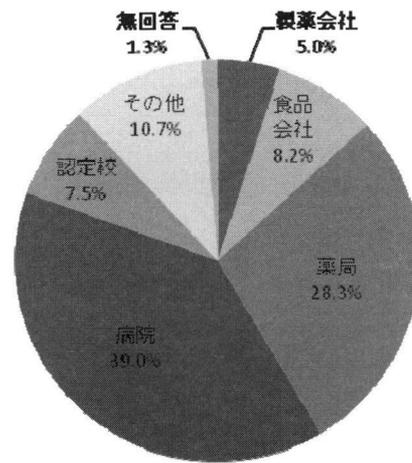


図5B 携わっている健康食品関連の機関

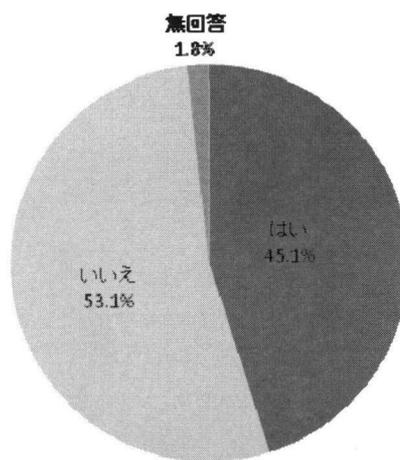


図5C 携わっていない人の健康食品に関連する仕事への就職希望

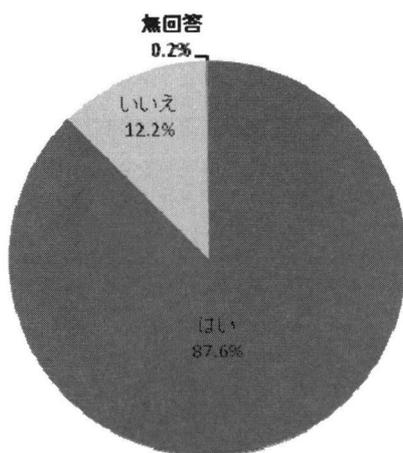


図6A 国家資格の有無

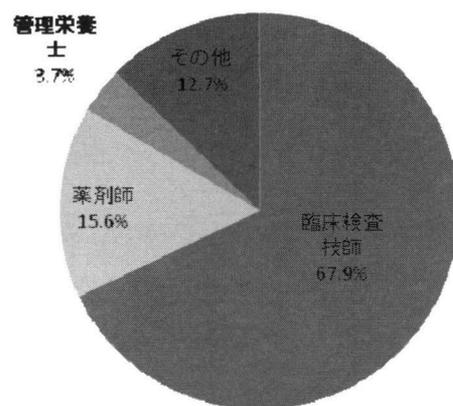


図6B 取得済み国家資格

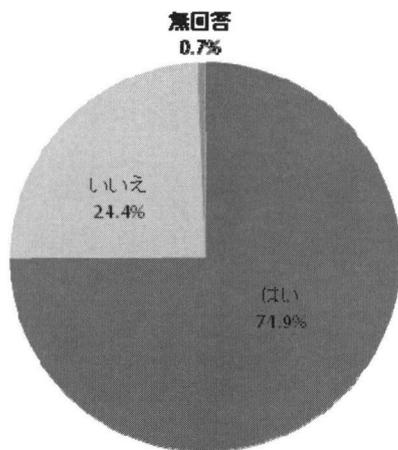


図7A 健康食品管理士以外の健康食品  
関連資格があることを知っているか

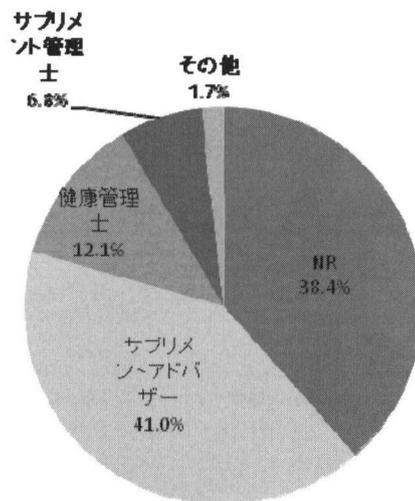


図7B 認知されている資格

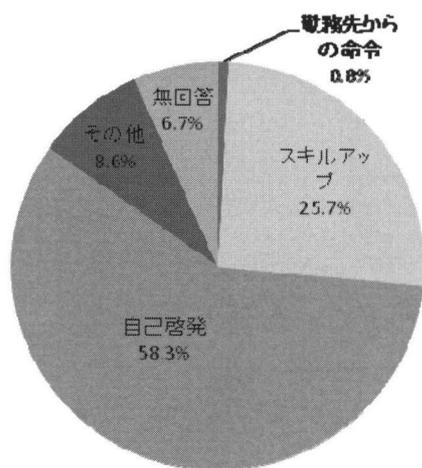


図8A 資格取得の目的

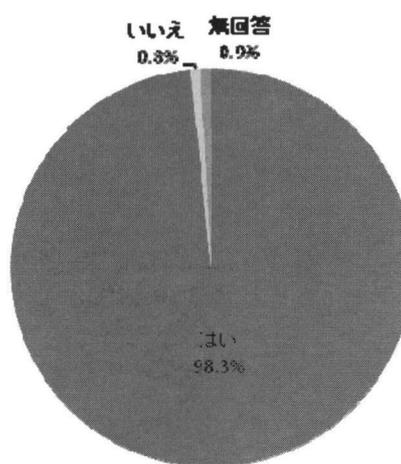


図8B 更新意思の有無

表1 更新意思の有無の理由

今後も仕事上、資格を活かしていきたい	34.5%
現在は違うが、今後資格を活かした仕事をする予定がある	28.9%
現在は仕事上、資格を活かしているが、今後は資格を活かした仕事をする予定がない	0.2%
現在も今後も資格を活かした仕事をする予定がない	2.8%
その他の理由	33.6%

「その他の理由」具体例

- ・現在も今後も資格を活かす仕事に就く予定はないが、今後、役に立つかもしれない
- ・せっかく取得した資格だから
- ・新しい知見を得るため
- ・スキルアップのため
- ・自己啓発のため
- など

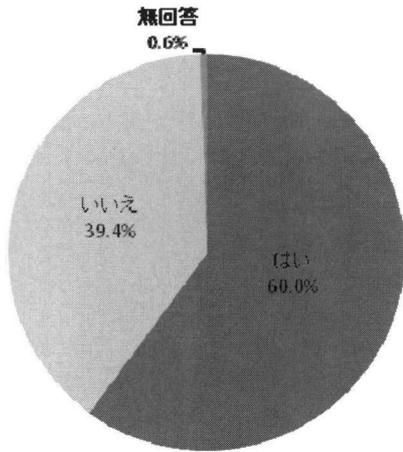


図9A 試験前に養成機関への通学  
または通信教育の有無

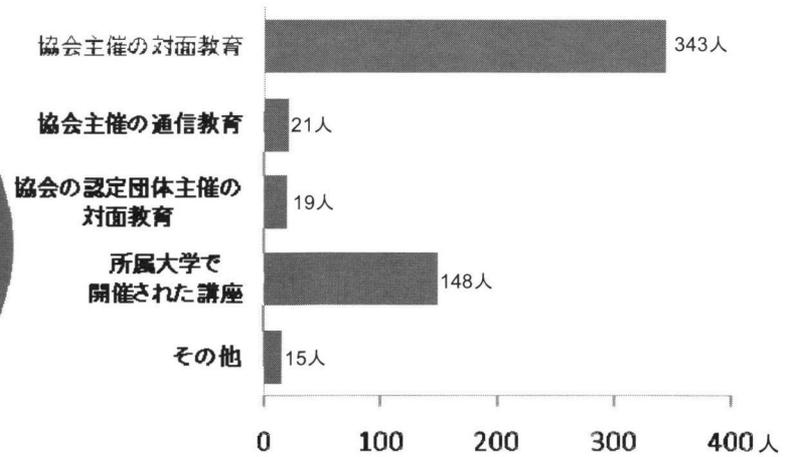


図9B 具体的な方法

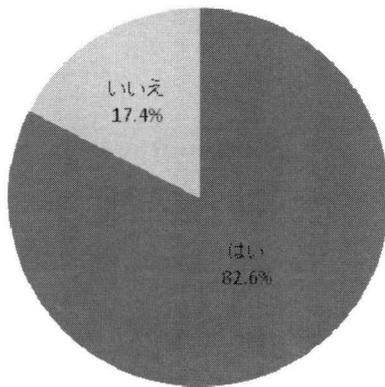


図9C-1 認定試験前に受講した養成講座の  
カリキュラムは十分だったか

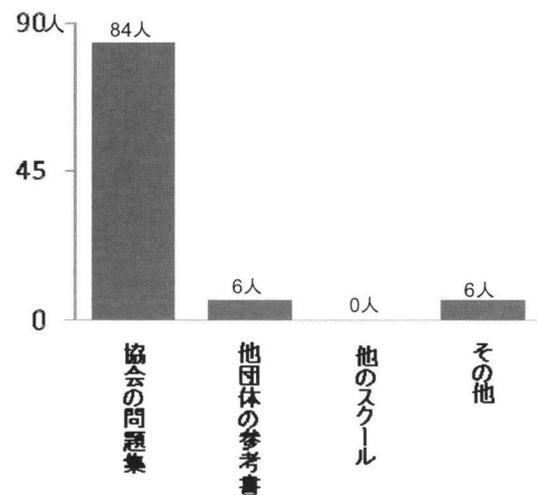


図9C-2 不十分だった場合の  
補充学習方法

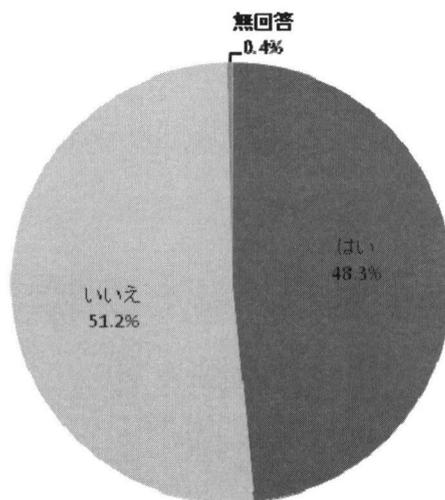


図10A 資格は役に立っているか

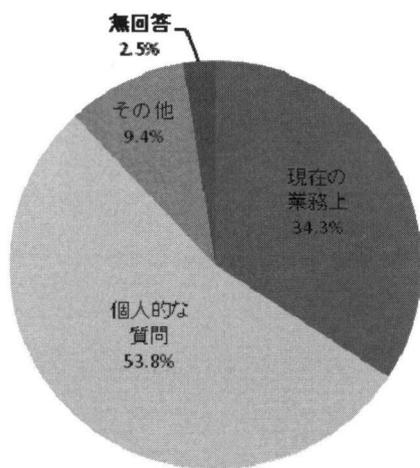


図10B 資格が役に立っている具体的な場面

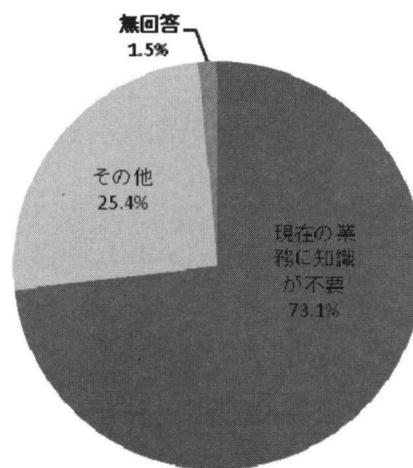


図10C 資格が役に立っていない理由

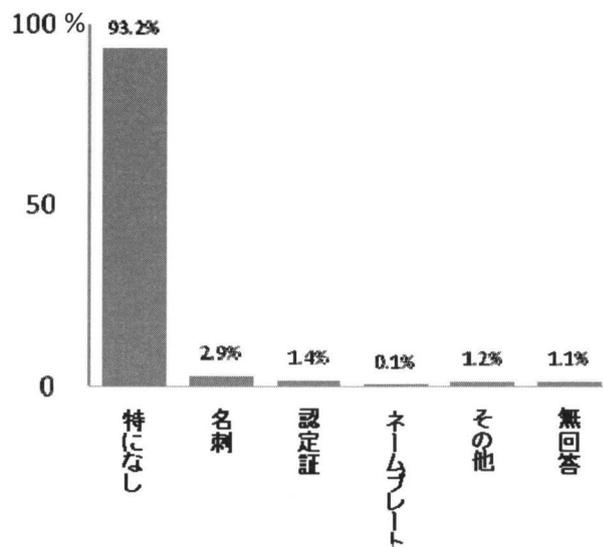


図11 有資格者であることを消費者に認知してもらうために行っていること

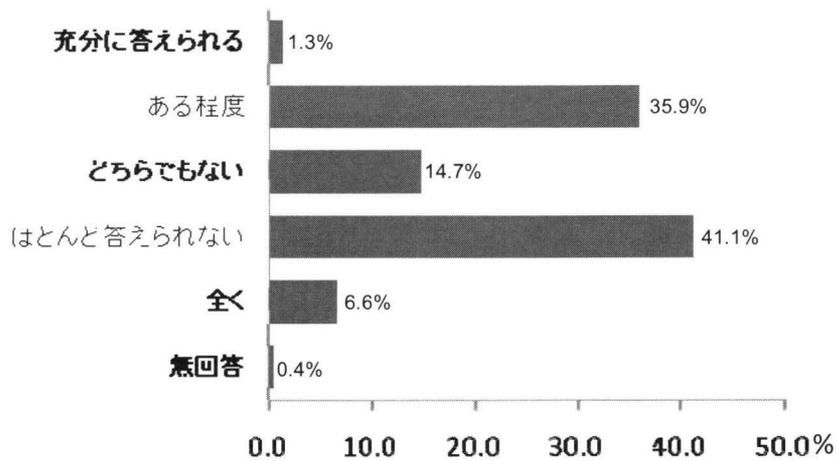


図12A-1 健康食品に関するアドバイスを求められた場合、対応できるか

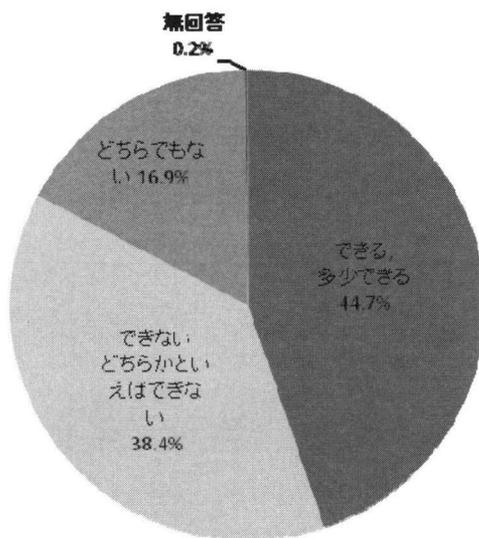


図12A-2 資格を活かしたいと考えている人のうち健康食品に関するアドバイスを求められた場合、対応できるか

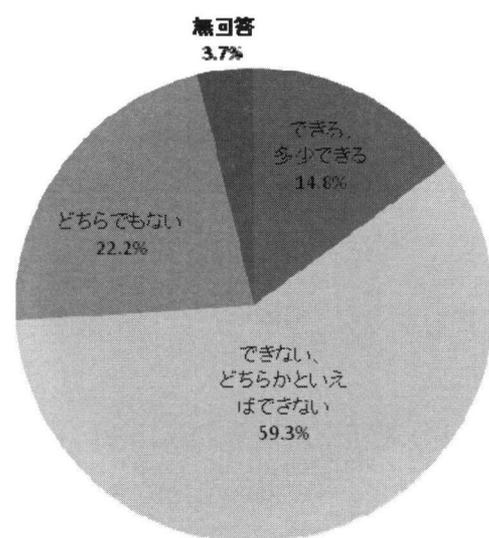


図12A-3 資格を活かすつもりがない人のうち健康食品に関するアドバイスを求められた場合、対応できるか

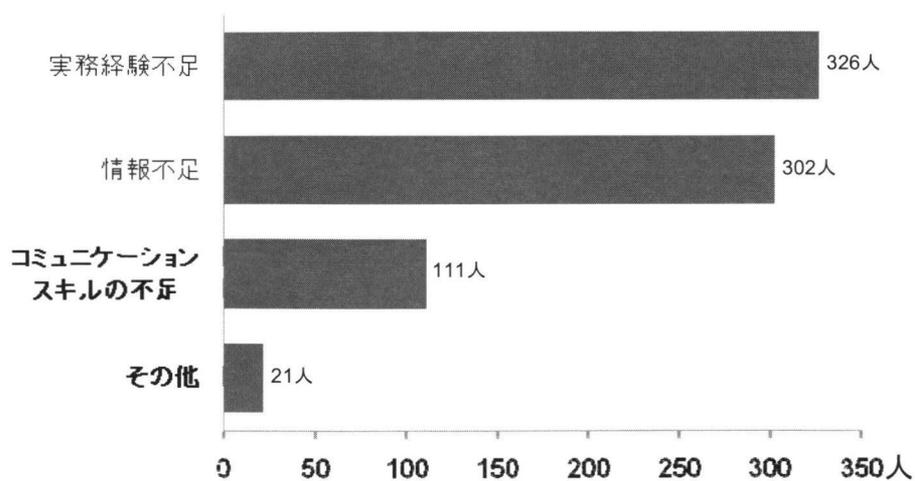


図12B 対応することができない理由

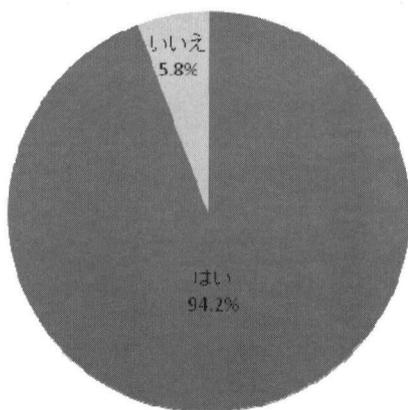


図12C-1 アドバイスができるようになりたいか

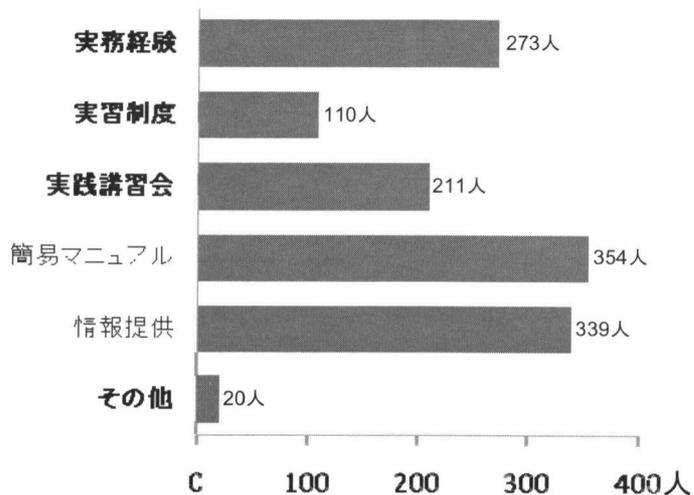


図12C-2 アドバイスに必要なもの

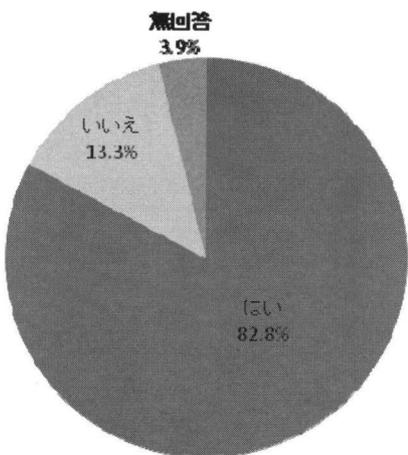


図13 現在の更新制度は満足できるものか

#### 「いいえ」と答えた理由

- 仕事や時間の都合上、研修会に参加できない
- 参加認定学会が少なすぎる
- 講習会・研修会の数を増やしてほしい
- 更新制度が分かりにくい
- 年会費が高い
- など

表2 健康食品管理士会報にはどの程度目を通すか

必ず読む	15.1%
一応、目は通す	46.0%
興味のある記事だけ読む	34.8%
目次だけ見る	2.1%
全く読まない	1.8%
会報の存在を知らない	0.0%
無回答	0.2%

付随資料8

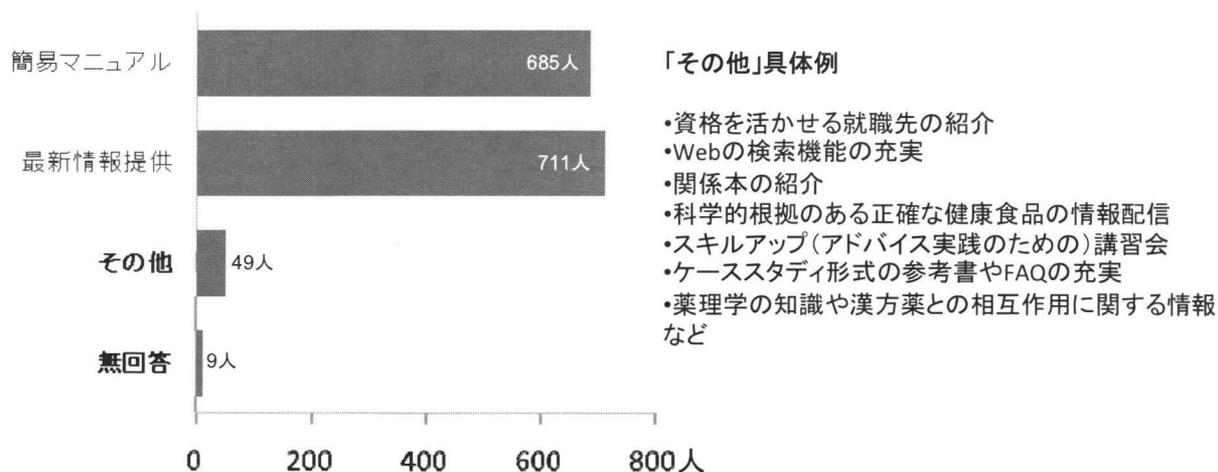


図15 講習会以外に求められているフォローアップ

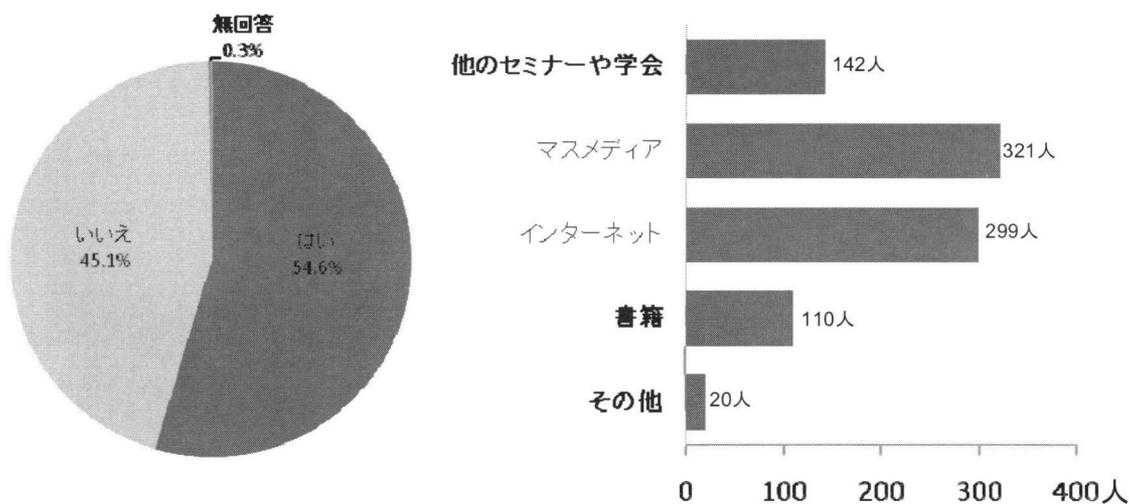


図16 講習会や研修会以外に個人で情報を取り入れているか、またその具体的な方法

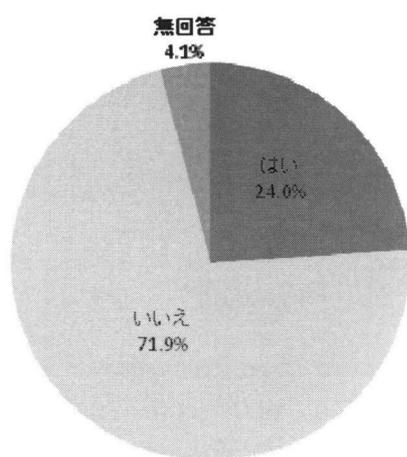


図17 社会的 position 付けに満足しているか

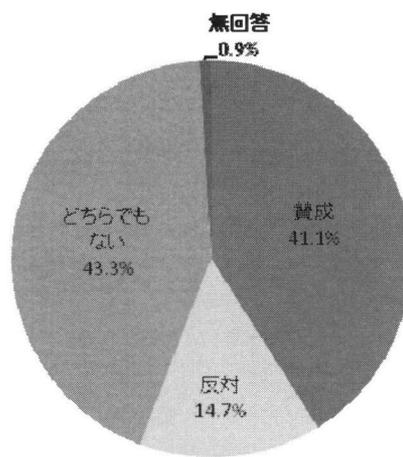


図18 類似した資格との統合について

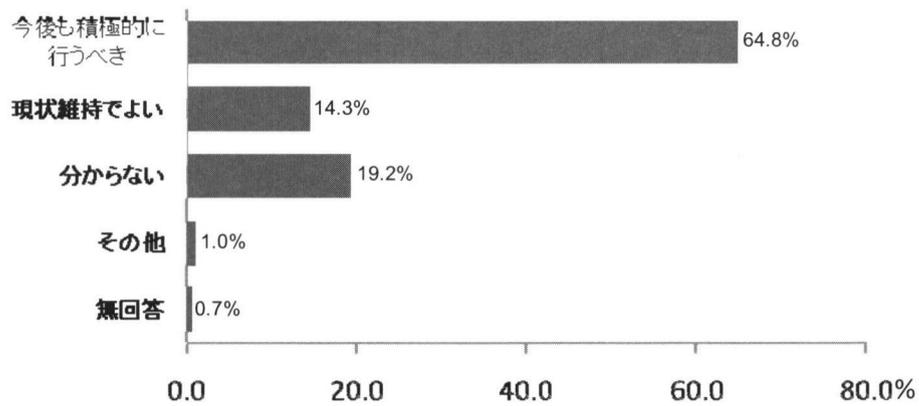


図19A-1 アドバイザリースタッフの育成について

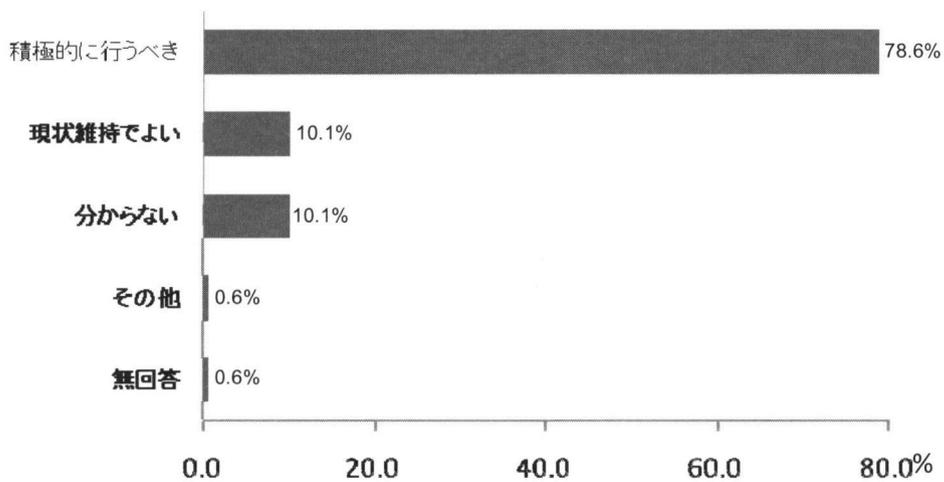


図19A-2 現在、健康食品関連業務に関わっている人が  
アドバイザリースタッフの育成についてどう考えているか

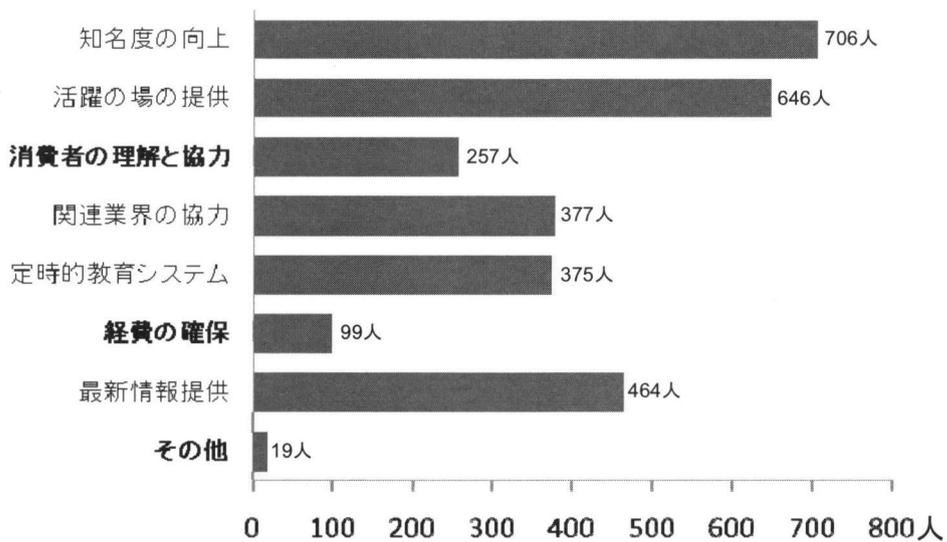


図19B 育成のために重要なこと

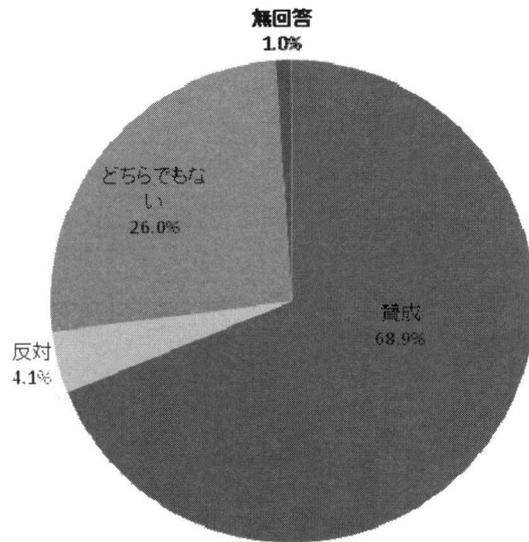


図20 国家資格化について

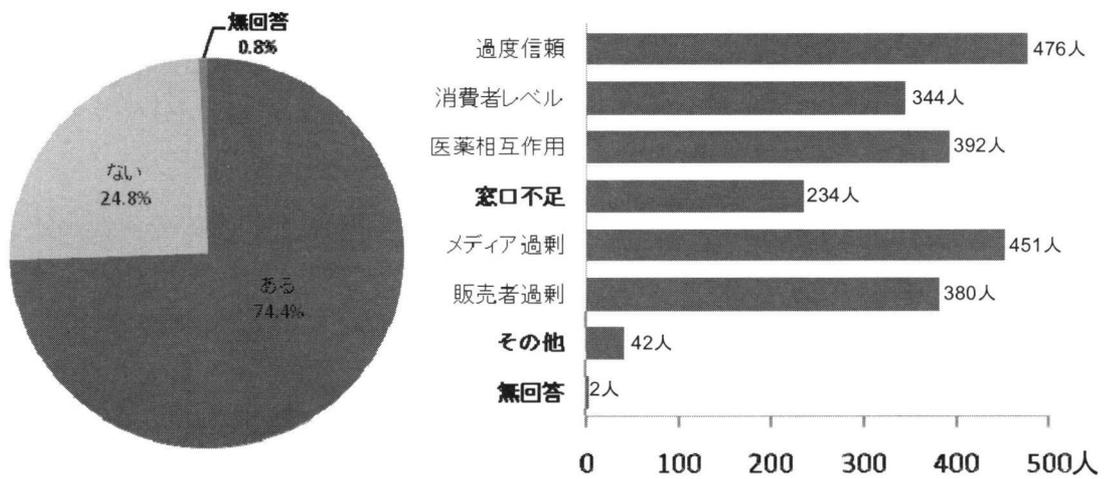


図21 健康食品の現状について気になっていることがあるか、またその気になること

表3 世界の健康食品・サプリメントに関する現状比較(2007年現在)

名称	US		EU		中国		大韓民国		日本	
	Dietary supplement (米国食品医薬品庁)	FDA (米国食品医薬品庁)	Food supplement (欧州食品安全機関)	EFSA (欧州食品安全機関)	保健食品 (国家食品薬品监督管理局)	SFDA (国家食品薬品监督管理局)	健康食品 (韓国食品医薬品安全庁)	KFDA (韓国食品医薬品安全庁)	保健機能食品	厚生労働省
サブプリメントの位置付け	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品
副作用報告義務	有	有	有	有	無	無	有	有	無	無
新規成分の 安全性確認	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
サブプリメント消費額 (USドル)国民一人あたり		\$136		\$92	-	-	-	-	\$166	\$166
アドバイザースタッフの 有無	無	無	無	無	無	無	無	無	有	有 (民間認定資格複数有)

厚生労働科学研究費補助金(食品の安心安全確保推進研究事業)  
分担研究報告書

健康食品の情報提供システム体制の構築と安全性確保に関する研究

研究分担者 金澤 秀子 慶應義塾大学薬学部教授

**研究要旨**

医療従事者の中には、健康食品の専門家がほとんどいないといわれている。健康食品の多くは、薬局で販売されており、薬の専門家である薬剤師が NR などの資格を有し、健康食品に関する最新情報と正確な知識を習得することにより、消費者に対しての適切な情報の提供が期待される。薬剤師が健康食品について最新情報を手に入れ専門的なアドバイスを行えるような研修システムおよび情報提供ツールについて検証し、適切なシステムの構築を目的とした。健康食品についての知識を必要としている薬剤師を対象に研修システムについてのアンケートによる実態調査を行なった。さらに腎臓透析専門の医療機関において医療スタッフと患者を対象とした健康食品についてのアンケート調査から医療機関における問題点を抽出し、薬剤師が患者や消費者に対して健康食品についての正しい情報を伝えるためのツールを試作した。

**A. 目的**

現在、医療従事者の中には、健康食品の専門家がほとんどいないといわれている。一方薬剤師の教育課程は 6 年制となり、さらなる薬剤師教育の充実化が図られてきている。サプリメントを含む健康食品の多くは、薬局で販売されており、薬の専門家である薬剤師が NR などの資格を有し、健康食品に関する最新情報と正確な知識を習得することにより、消費者に対しての適切な情報の提供が期待される。これまで薬剤師が関与する栄養関連の資格としては、日本静脈経腸栄養学会の NST(栄養サポートチーム)専門療法士の認定対象に薬剤師が入っており、米国では栄養管理専門薬剤師制度があるが、これらは主に病院における患者を対象としており病態に合わせた栄養状態の管理に主眼をおいているため、必ずしも健康食品について十分な知識を持っているとは言えない。しかし、健康食品は、主に高齢者や子供を含めた健常人が対象となり、必要とされる知識・専門性の内容も大きく異なる。健康食品による被害を未然に防ぐためにも健康に関心の高い消費者に対し、マスコミ等による宣伝に惑わされることなく、表示や使用方法はもとより薬との相互作用などに関する確にアドバイスのできる薬剤師が必要とされる。また、医療機関においても薬と健康食品の両者について正しい知識を持った医療従事者が必要である。

近年セルフメディケーションの重要性が高まり、プライマリケアを担う医療機関として薬局の役割が注目されており、医薬品のみならず健康食品等の最新情報と正しい知識を持った薬剤師が今後益々必要とされる。薬剤師は、常に医薬品との相互作用データなどの最新情報の収集に努め、準備しておくことが必要になる。

本研究では、特に薬剤師が健康食品について最新情報を手に入れ専門的なアドバイスを行えるような研修システムおよび情報提供ツールについて検証し、適切なシステムの構築を目指す。

**B. 研究方法**

1) 薬剤師のための健康食品情報提供システムの検証

薬剤師による健康食品情報提供のあり方についての講演会を開催し、演習も行なった。

2) 健康食品情報提供の現状の把握：  
(薬剤師や医療従事者への職業別でのアンケート)

透析患者100名および透析室スタッフ 45名に対しアンケート調査を行った。

病院勤務の薬剤師41名を対象にアンケート調査を行なった。

3) 薬剤師のための情報提供ツールの作成  
患者や消費者に対する健康食品使用の聞き

取りや服薬指導などの際に使えるカード式の説明ツールを試作した。

## C. 研究結果

### 1) 薬剤師のための健康食品情報提供システムの検証

平成21年12月11日(金)研究協力者として本研究をサポートする病院薬剤部等で薬局長など管理者として勤務する薬剤師と今後の計画について企画会議を開催した。

平成22年1月23日(土)に慶應義塾大学芝共立キャンパスにおいて「健康食品の情報提供と薬剤師の関わり」というテーマで講演会を開催し、大妻女子大学池上幸江教授に講師を依頼し、薬剤師200名の参加があった。

また講演後にNR資格を有する薬剤師も含め演習形式で、食品表示など栄養関連の重要事項について知識の定着を図った。資料を作成し配布した。

### 2) 健康食品情報提供の現状の把握:

#### ① 患者アンケート調査結果

透析患者100名についてアンケート調査を行い、集計した結果を図1～13に示した。回収率は86%(男性60名・女性26名、平均年齢61.8歳、平均透析歴10年8ヶ月)であった(図1, 2)。

30.2%の患者に使用経験があり、そのうち84.6%は使用の際にスタッフに相談していなかった(図3, 4)。

48.8%の患者は品目により副作用があり、39.5%は一部には医薬品との相互作用があると答えた。一方、3.5%が副作用はない、8.1%が相互作用はないと答えた(図5, 6)。

安全性の情報はウェブサイトで調べると答えた患者が20%と最も多く、そのうち47%はGoogleなどの検索サイト、次いで19%は製造または販売会社のウェブサイトを見ると答えた(図7, 8)。

健康食品・サプリメントの使用目的としては、栄養不足、野菜不足、滋養強壮が上位に挙げられた(図10)。

効果を感じたと回答した患者は27%であり、効果を感じなかった、わからないと回答した患者は65%であった(図11)。

健康食品・サプリメントを知ったきっかけは、TV・ラジオ・新聞・雑誌などの広告が54%、家族・親戚・友人からの紹介が23%であった(図13)。

#### ② 医療スタッフ(薬剤師以外)

透析室スタッフ45名に対しアンケート調査を行い、集計結果を図14～28に示した。

54%の医療スタッフが患者から健康食品・サプリメント使用についての相談を受けたことがあると回答している。相談を受けた具体的な内容としては、骨粗鬆症、関節痛、便秘が上位に挙げられている。

37%の医療スタッフが患者に健康食品・サプリメント使用について尋ねることがあると回答し、処方薬の説明・指導と共にサプリメントや食事についてのアドバイスを場合によって行っていると回答した医療スタッフは60%であった。

17%の医療スタッフが健康食品・サプリメントについても薬歴と共に必ず管理すべきである、59%の医療スタッフが重要と思える事項のみ薬歴と共に管理すべきであると回答した。

健康食品・サプリメントの成分・原料に関する情報の入手先としては製薬会社に電話するが30%、次いでウェブサイトで検索するが28%、書籍・雑誌などで調べるが11%という結果であった。

ウェブサイトで検索すると回答した医療スタッフがよく利用しているのは、製造又は販売会社のウェブサイトが52%と最も多く、次いで検索サイトの利用が32%であった。

医薬品との相互作用に関する情報は、薬剤師に聞くが26%、次いでウェブサイトで検索するが18%、書籍・雑誌などで調べるが16%であった。

ウェブサイトで検索すると回答した医療スタッフがよく利用するサイトは、48%が製造又は販売会社のウェブサイト、24%が検索サイト、19%が厚生労働省のウェブサイトであった。

副作用などの安全性に関する情報は、薬剤師に聞くが25%、次いでウェブサイトで検索するが21%、書籍・雑誌などで調べるが16%であった。

ウェブサイトで検索すると回答した医療スタッフがよく利用するサイトは、46%が製造又は販売会社のウェブサイト、27%が検索サイト、18%が厚生労働省のウェブサイトであった。

#### ③ 病院薬剤師に対するアンケート調査

医療機関における薬剤師の健康食品情報提供の実態と問題点抽出のため、病院勤務の薬剤師を中心に41名にアンケート調査を行い、

集計結果を図29～39に示した。

90%の薬剤師が患者から健康食品・サプリメント使用についての相談を受けたことがあると回答している。相談を受けた具体的な内容としては、治療薬やOTC薬が最も多く、次いで足腰の痛み、栄養不足、滋養強壮であった。

薬局に来た患者に対して薬歴と共にサプリメントの使用について尋ねることがあると回答した薬剤師は“必ず”と“場合によって”を合わせると68%であった。

処方薬の説明・指導と共にサプリメントや食事についてのアドバイスを行っていると回答した薬剤師は“必ず”と“場合によって”を合わせると81%であった。

36%の薬剤師が健康食品・サプリメントについても薬歴と共に必ず管理すべき、61%の薬剤師が重要と思える事項のみ薬歴と共に管理すべきと回答した。

処方薬やOTC薬とサプリメント類の相互作用に関する情報は、ネットでの検索と回答した薬剤師が28%、次いでメーカーの持っている薬剤師は10%であったが、必要性を感じている薬剤師は26%であった。ウェブサイトが26%、書籍が14%であった。

薬局に置く商品の選択理由としては、エビデンスが明らかなもの、製薬メーカーあるいは大手企業の商品、GMP基準に則しているものが上位に挙げられた。

健康食品・サプリメントに関する資格を持っている薬剤師は10%であったが、必要性を感じている薬剤師は26%であった。

薬局に置く商品の選択理由としては、エビデンスが明らかなもの、製薬メーカーあるいは大手企業の商品、GMP基準に則しているものが上位に挙げられた。

#### ④ 特別講演会に出席した薬剤師対象のアンケート調査

1月23日の特別講演会に参加した健康食品の情報提供と薬剤師の関わりについて興味があると思われる薬剤師約200名についてアンケート調査を行い、集計した結果を次ページからの1～9に示す。

#### 3) 薬剤師のための情報提供ツールの作成

① 薬剤師が患者や消費者に対する健康食品使用や服薬指導に使えるカード式の説明ツールB5版を試作した。

② 薬局勤務の薬剤師11名に試作した情報提供ツールについて意見を求めたところ、大変有効なツールである、大きさは手ごろ紙の厚さ

もよい、差し替えできるスタイルもよいなどと概ね好評であった。

③ 対象者(病気の人、高齢者、妊婦、母親)毎に分けて作ると使い易い。一般向け対象の情報提供ツールとして作成してほしい。情報ツールは薬剤師向け、患者向けを別にすると見やすい。カリウム上昇例、ウコンを服用中に肝機能悪化等・・・例を挙げた資料があれば一般の人にも興味がわく。1ページあたりの情報量を少なくなどの意見もあった。

薬剤師の意見を取り入れて次年度に向けて改良していく予定である。

## D. 考察

### 1) 薬剤師のための健康食品情報提供システムの検証

薬剤師の多くは健康食品情報提供が必要だという認識はあるが、情報の入手先などの知識もなく、NRなどの資格の取得者もまだ少ないことが示された。薬剤師のための講演会開催による啓発が必要と思われる。

NR有資格者が知識はあっても活用ができていない実態が明らかとなり、今後は、患者や消費者にスムーズに情報提供する能力を身につけるための演習などを行う必要があると思われる。

### 2) 健康食品情報提供の現状の把握

医療機関(透析患者)において患者は安全性について疑問を持っていることが窺えた。摂取の可否や安全性などについて正確な情報を提供できる体制作りが望まれる。

### 3) 薬剤師のための情報提供ツールの作成

患者や消費者に対する健康食品使用の聞き取りや服薬指導などの際に使えるカード式の説明ツールは、必要であるという薬剤師の意見が多かった。試作品は概ね好評であったことから、今後は、より使いやすい形態で作成したものを配布し、病院や薬局で使用して頂き、意見をとりいれて改良を行う。

## E. 結論

健康食品の多くは、薬局で販売されているため、薬の専門家である薬剤師がNRなどの資格を有し、健康食品に関する最新情報と正確な知識を習得することにより、消費者に対しての適切な情報の提供が期待される。そのため、薬剤師が健康食品について最新情報を手に入れ専門的なアドバイスを行えるような研修システムおよび情報提供ツールに

ついて検証し、適切なシステムの構築を試みた。また、健康食品についての知識を必要としている薬剤師を対象に研修システムについてのアンケートによる実態調査を行なった。さらに腎臓透析専門の医療機関において医療スタッフと患者を対象とした健康食品についてのアンケート調査から医療機関における問題点を抽出し、薬剤師が患者や消費者に対する健康食品使用や服薬指導に使えるカード式の説明ツール B5 版を試作した。その結果、薬局勤務の薬剤師 11 名に試作した情報提供ツールについて意見を求めたところ、大変有効なツールである、大きさは手ごろで紙の厚さもよい、差し替えできるスタイルもよいなどと概ね好評であったが、対象者(病気の人、高齢者、妊婦、母親)毎に分けて作ると使い易い、一般向け対象の情報提供ツールとして作成してほしい、情報ツールは薬剤師向け、患者向けを別にすると見やすい、カリウム上昇例、ウコンを服用中に肝機能悪化等例を挙げた資料があれば一般の人興味もわく、1 ページあたりの情報量を少なくなどの意見もあった。

患者や消費者に対する健康食品使用の聞き取りや服薬指導などの際に使えるカード式の説明ツールは、必要であるという薬剤師の意見が多かった。試作品は概ね好評であったことから、今後は、より使いやすい形態で作成したものを配布し、病院や薬局で使用して頂き、意見をとりいれて改良を行う。

## F.研究発表

### 1.論文発表

なし

### 2.学会発表

なし

### 3.その他

なし

## G.知的所有権の取得状況

### 1.特許取得

なし

### 2.実用新案登録

なし

### 3.その他

なし

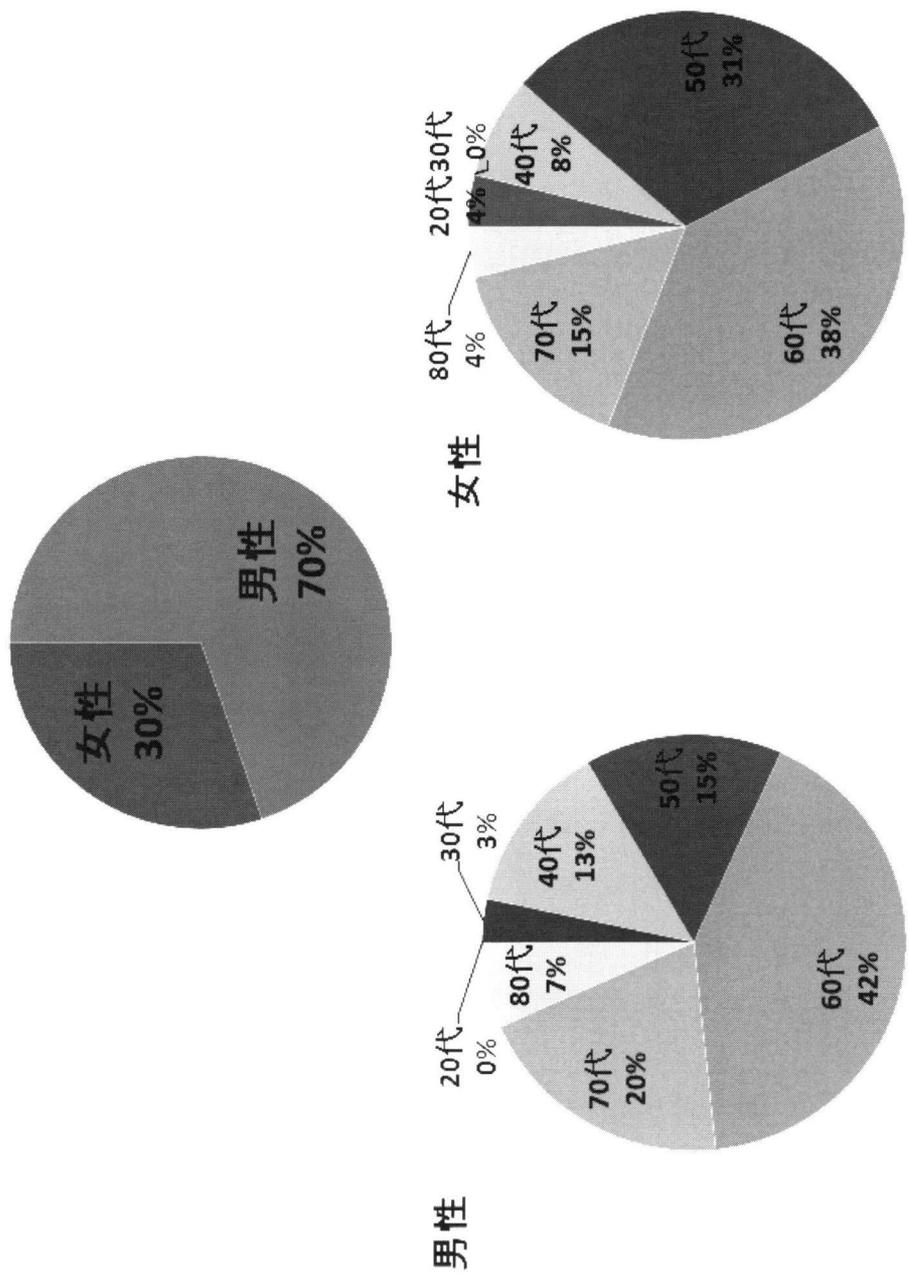


図1 回答者(患者)の性別および年齢

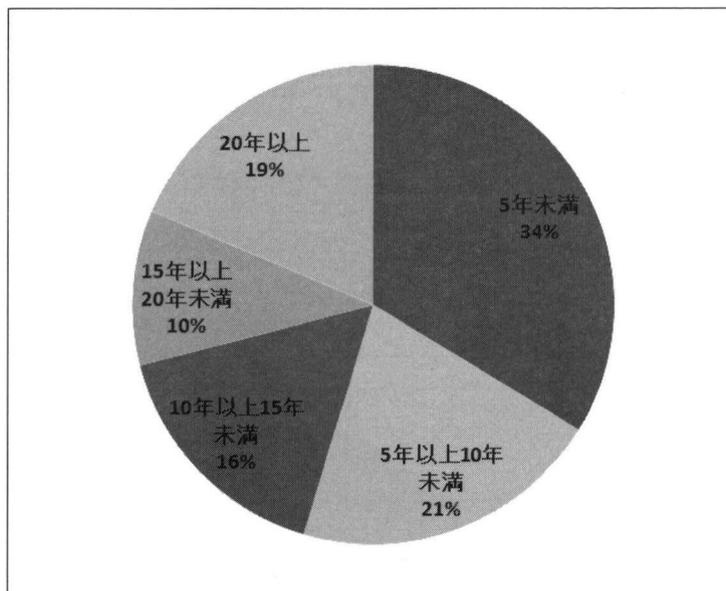


図 2: 回答者(患者)の透析歴

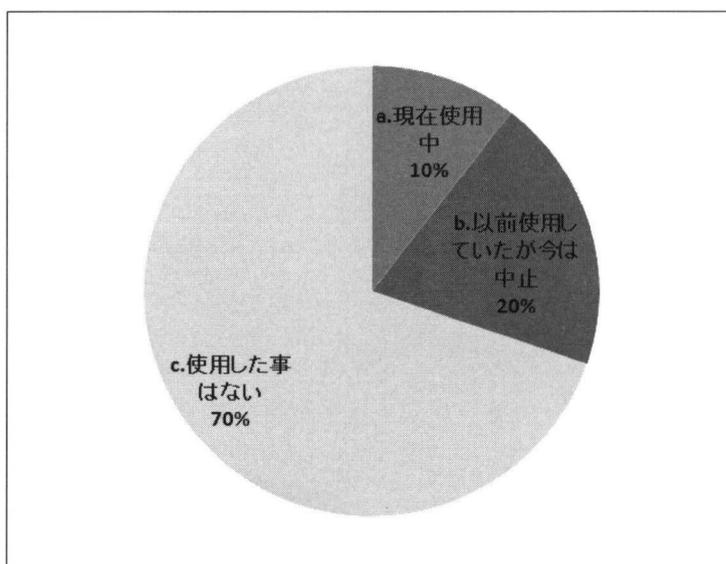


図 3: 健康食品・サプリメントの使用

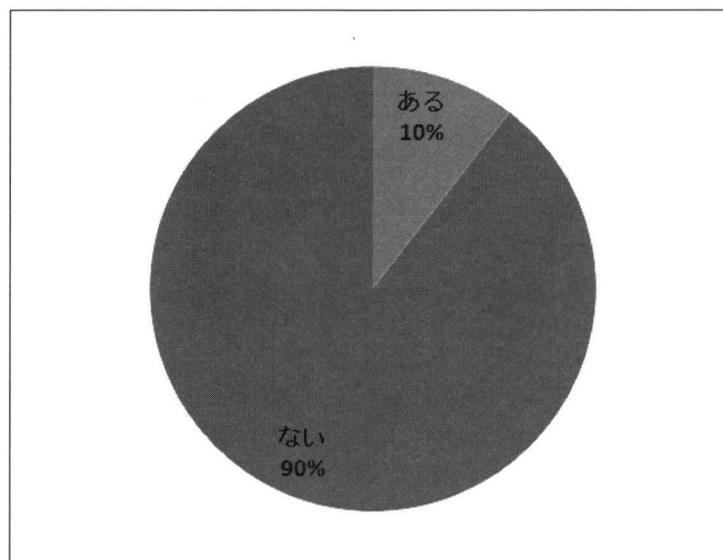


図 4: 医療スタッフから使用の有無を尋ねられたことがあるか

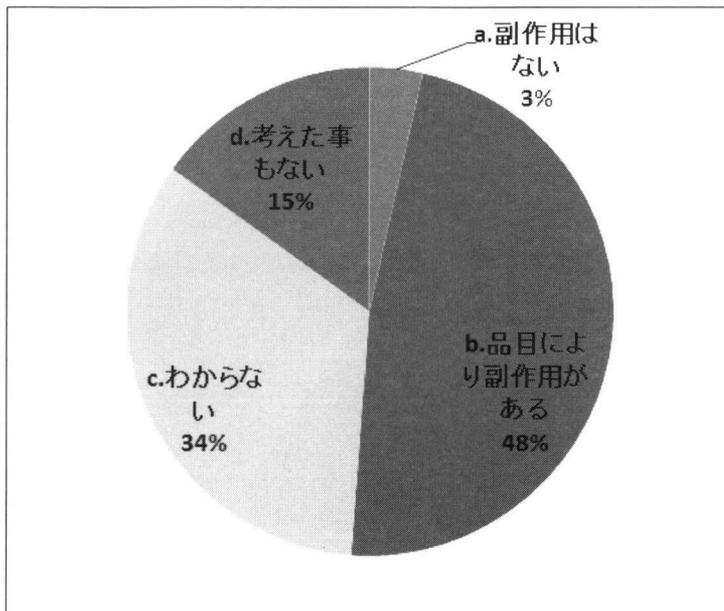


図5 健康食品・サプリメントに副作用があると思うか

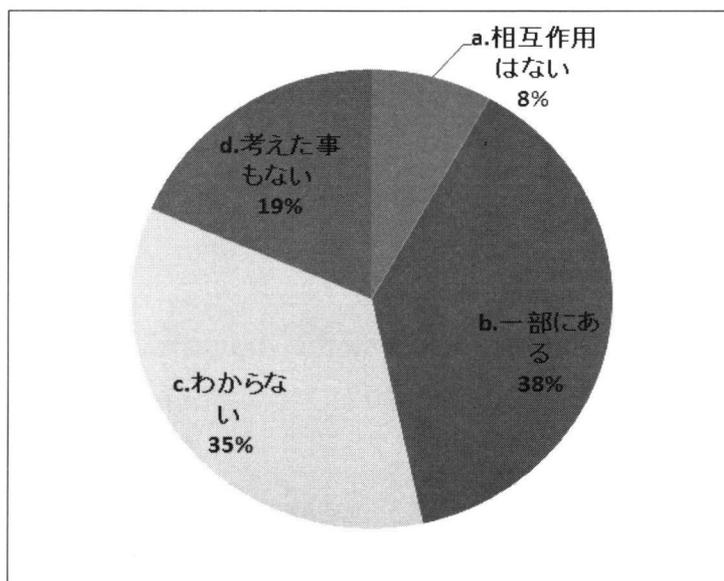


図6 医薬品との相互作用

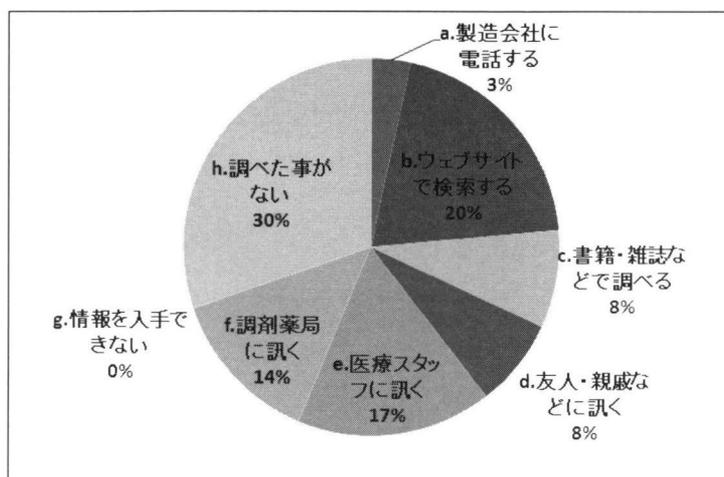


図7 安全性情報の調べ方

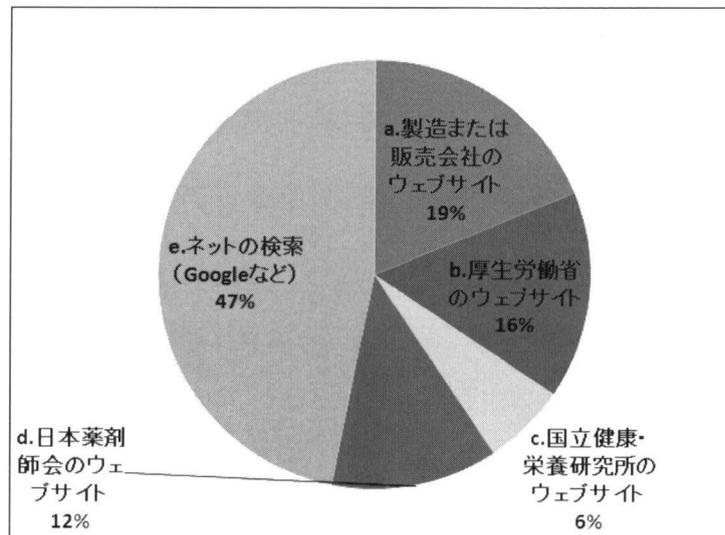


図 8 よく検索するウェブサイト

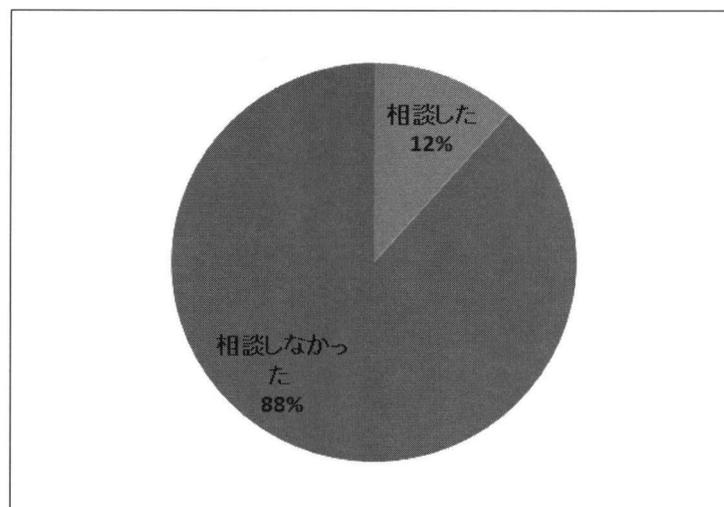


図 9 医療スタッフへの相談

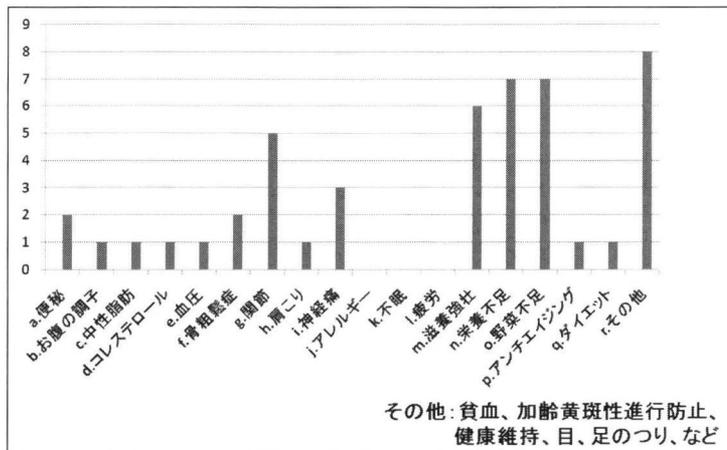


図 10 健康食品・サプリメントの使用目的

トリプルX レシチン  
 カルシウム剤 ビタミンE ビタミンC リポビタンD  
 ドリンク剤 グルコサミン コンドロイチン マイクロダイエット  
 BBキューブ コエンザイムQ10 カルニチン  
 マルチミネラル マルチビタミン  
 グルコン 日本薬師堂 コエンザイムQ10 眼の栄養  
 ブルベリ成分の入ったサプリメント  
 アルファQ10 サンクロレラ  
 黄緑野菜サプリ 目薬の木  
 ウコン 黒酢 ミミズの粉  
 NASAが開発したもの

図 11 健康食品・サプリメントの品名または内容

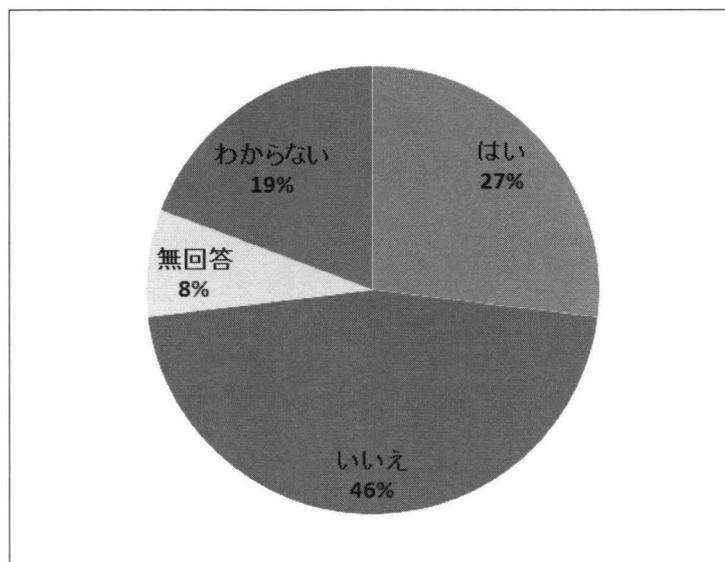


図 12 効果の有無

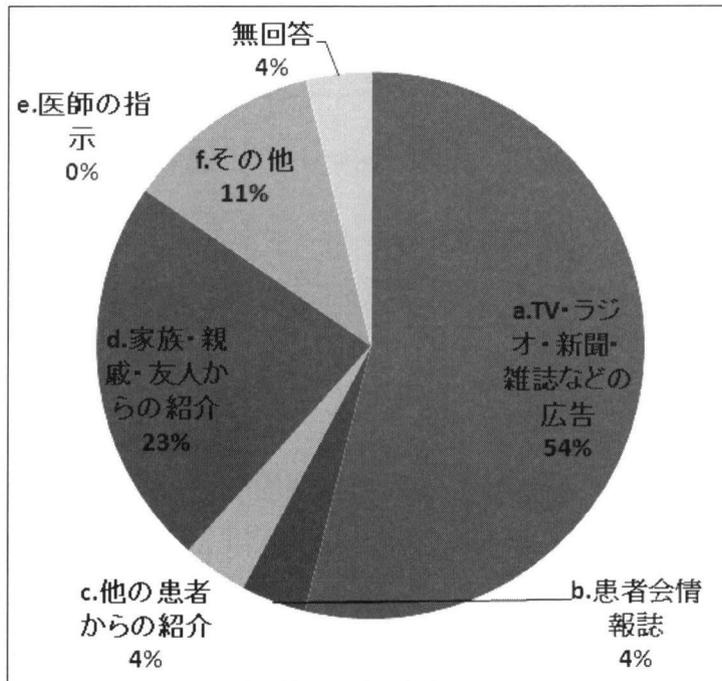


図 13 健康食品・サプリメントを知ったきっかけ

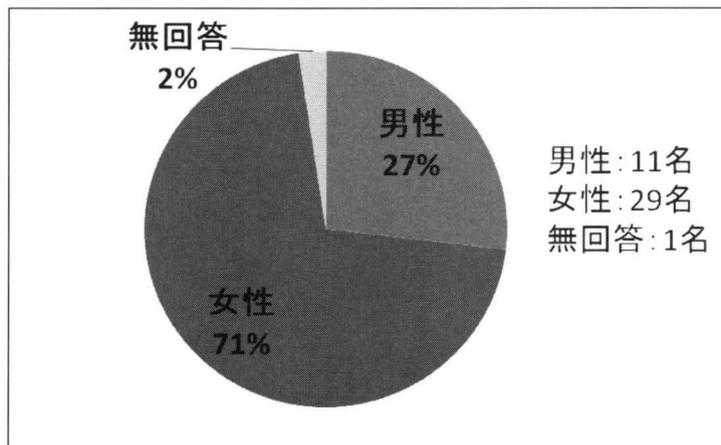


図 14 回答者(医療スタッフ)の性別

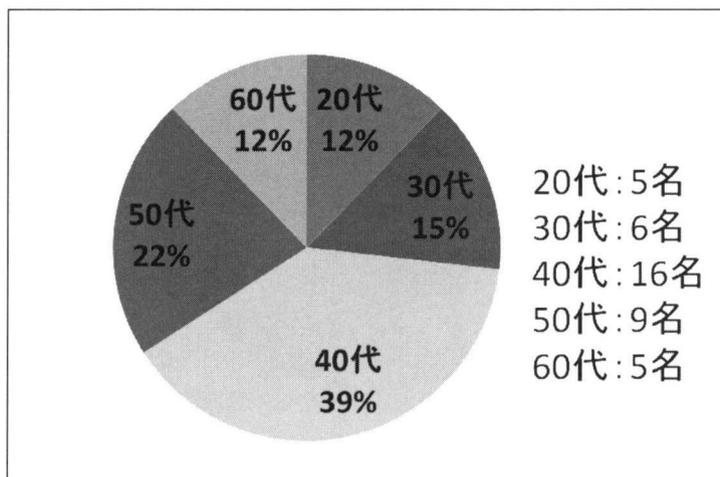


図 15 回答者(医療スタッフ)の年齢